

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

October 31, 2020 No.15

JACET 関東支部ニューズレター第 15 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 藤尾美佐 (東洋大学)

今年度は、年度の始めより、新型コロナ感染の急激な拡大、それに伴う学事暦や授業形態の変更など、これまでにない不測の事態での幕開けとなりました。会員の皆様にも、試行錯誤で日々の課題を乗り越え、同時に新しい可能性を見出す、変化の多い半年間だったのではないのでしょうか。

そうした中、関東支部では、4月の講演会のみ中止としたものの、5月の緊急座談会、6月の関東支部・東洋大学共催企画と、逸早くオンラインでの開催に踏み切り、第13回関東支部大会も、8月29日(土)・30日(日)にオンラインでの開催を行い、大変な盛況のうちに幕を閉じましたこと、改めてご報告させていただきます。

前回のニューズレターでも記しましたように関東支部の活動には大きく4つの柱がありそれぞれにこの半年を振り返って参りたいと思います。

1) 関東支部大会の開催

第13回関東支部大会は、当初、7月5日(日)に、帝京科学大学(千住キャンパス)にて、「英語教育と地域連携—地域から発信するグローバル・メッセージ—」というテーマで開催される予定でしたが、急激なコロナ感染拡大により対面での実施を諦めることを余儀なくされ、急遽、大会テーマを「危機の時代と変わりゆく英語教育」と変更し、個人発表を中心に、関東支部特別企画を加え、8月29日(土)、30日(日)にオンラインでの開催を行いました。今回の支部大会には285名の申し込みがあり、ここ数年の2倍の参加者数を記録できたことは、今後の1つのターニング・ポイントになったかと思います。(なお、当初予定しておりました、「英語教育と地域連携—地域から発信するグローバル・メッセージ—」に関する基調講演、シンポジウム、会場校企画など

目次	
・ 巻頭言 JACET 関東支部長 藤尾美佐-1-	・ 支部講演会委員会報告 支部講演会委員長 山本成代-10-
・ 第12回関東支部大会報告 支部大会運営委員長 新井巧磨-3-	・ JACET 関東支部・東洋大学共催企画報告 関東支部運営委員 中竹真依子-10-
・ 第1回支部総会報告 支部事務局幹事 奥切恵-6-	・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ 支部紀要編集委員長 鈴木 彩子-11-
・ JACET 関東支部 (5月) 緊急座談会報告 JACET 関東支部長 藤尾美佐 関東支部運営委員 中竹真依子-9-	・ 事務局だより 支部事務局幹事 奥切恵 - 12 -

は、来年度第14回 JACET 関東支部大会にて実施する予定です。)

また、「オンライン授業の課題と可能性」というテーマについては、5月23日(土)にも緊急座談会を開催しましたところ、約70名の方にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。会員の先生方のこの問題への関心の深さがうかがわれ、今後も継続的に発展させていきたいテーマでございます。

さらに、支部大会は、オンラインという新しい媒体で行われたのみならず、今回より新しい企画として、SIGの発表や情報発信のセクションを立ち上げました。他支部からのご参加もいただいたことは、もう1つのターニング・ポイントにもなったと思います。

改めまして、支部大会をサポートいただいた運営委員会の皆様、賛助会員の皆様、そして参加者の皆様にお礼申し上げます。

2) 関東支部講演会および JACET 関東支部・東洋大学共催企画

関東支部では、支部運営会議をほぼ毎月実施しており、その後に必ず研究会を開催しております。これは運営上、関東支部講演会と JACET 関東支部・東洋大学共催企画の2つから成っており、前者は幅広い分野での講演を、後者は講演会だけでなく、研究手法に関するワークショップなど、幅広い企画を視野に入れております。4月の講演会はさすがに中止せざるを得ませんでした。その際予定されていた発表(法政大学、中谷安男先生)は、6月の関東支部・東洋大学共催企画で実現することができました。こちらにも100名に及ぶ申し込みがあり、大変な盛況となりました。今後も10月には長田恵理先生(國學院大學)、12月には浅岡千利世先生(獨協大学)を支部講演会の演者としてお迎えし、関東支部・東洋大学共催企画では11月に李在鎬先生(早稲田大学)によるテキストマイニングのワークショップ、3月には早稲田大

学名誉教授の村田久美子先生によるご講演を予定しております。

3) 支部紀要 (JACET-KANTO Journal) の発行について

すでにお知らせしておりますように、今年度より紀要がWEB化されることになりました。これにより、コスト削減のみならず、締め切りを1ヵ月ほど遅らせることが可能になり、今回、いつもの倍以上の投稿数があったことは、関東支部の研究を活性化していく上で、大きな弾みとなったと思われまふ。投稿論文へのコメントも、投稿したことそのものに価値があったと思っただけの充実した内容にしたいと考えておりますので、今後も奮ってご応募ください。

4) ニュースレターの発行

支部における研究報告が Journal だとすると、支部活動の報告がこのニュースレターです。半年に1度、ニュースレターを通じて支部活動をご報告しております。今回は、支部大会が8月末になり、その結果をご報告できるよう、ニュースレターの発行を今回に限り10月末といたしました。編集委員の先生方には大変なご負担をおかけしているのですが、この短期間で編集に携わってくださった先生方に、改めて衷心よりお礼申し上げます。

このように、今年度はコロナという不測の事態に見舞われましたが、この大きなピンチを色々な形でむしろチャンスに変えられましたことは、関東支部の底力、そしてチームワークの賜物だと思っています。改めて運営委員の先生方にお礼申し上げるとともに、会員の皆様にもますますの積極的なご参画のほどをお願いし、今年度後半の活発な活動へとつなげて参りたいと思います。引き続き、宜しく願い申し上げます。

第12回 関東支部大会報告

支部大会運営委員長

新井巧磨（早稲田大学）

第13回（2020年度）JACET 関東支部大会が、「危機の時代と変わりゆく英語教育（Changing English Education in Times of Crisis）」を大会テーマとし、8月29日（土）と30日（日）の二日間にわたって行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンライン開催へ変更されたことに伴い、基調講演やシンポジウムは中止になりましたが、代わりに関東支部特別企画を開催いたしました。『オンライン授業の課題と可能性—今後の英語教育に向けて—（The Challenges and Opportunities of On-Line English Teaching: Toward Future Education）』と題し、古田直肇先生（東洋大学）、トム・ガリー先生（東京大学）、下山幸成先生（東洋学園大学）をお招きし、教員としての課題や試み、大学としての取り組み、そしてICTの今後という視点からそれぞれにお話を頂きました。また、賛助会員の展示も対面のようにはできなくなってしまったため、「賛助LT（ライトニング・トーク）」を導入いたしました。これは、賛助会員が作成した3分ほどの動画を各発表間の休憩時間中に配信してもらう、というものでした。

以上のように当初の予定から大幅に変更され、初のオンライン開催となりましたが、結果として300名近い参加登録があり、各発表も100名前後の方々にご参加頂くことができました。また、対面からオンラインへの急な変更ではごさいましたが、お申し込み頂いたほとんどの発表者にご発表いただくこともできました。運営においては、大会運営委員の皆様が、準備段階から当日に至るまで細やかな対応をして下さいました。大会に関わって下さったすべての方々へ改めまして心より感謝申し上げます。来年度の支部大会は帝京科学大学で開催される予定ですが、状況に応じて一部（あるいは全部）オンラインでの開催となる可

能性も否定できません。いずれにいたしましても、参加者の皆様により一層ご満足頂けるようなものにしていければと存じます。

以下は、今大会各発表の後記です（「研究発表」「実践報告」「関東支部特別企画」のみとなっております）。ご執筆頂いた先生方に感謝申し上げます。

#02. 実践報告

Google Drive を ePortfolio として活用したポイント制英語自主学习システムの実践

Implementing Point System English Self-access Study (POSSES) with Google Drive as ePortfolio

飯野厚（法政大学）

大学生の授業外での学習を促すために導入したポイント制英語自主学习システムについての報告がされた。様々な英語の学習方法にポイントを付与し、学生は自ら学習方法を選択し、Google Drive を ePortfolio として活用して学習の記録をつけた。その結果、学びが継続的に実行できたり、学習方法が多様化した。さらに学びの記録が可視化されたことで教員は指導法修正へのヒントがつかめると言える。

（伊藤泰子・神田外語大学）

#03. 研究発表

理系大学院生の英語科学技術論文における代名詞の使用—国際ジャーナルとの比較から—

An Analysis of English Pronouns in Japanese Science and Engineering Graduates' Papers

小屋多恵子（法政大学）

理系大学院生による英語論文での代名詞の使用と国際的な学術誌に掲載されている英語科学技術論文での使用を比較した。多くの科学技術論文が共著である一方、学生による論文は単著であることが多いが、単著にもかかわらず I と we が

混在しているものがあり、読者を混乱させる。また、it の使用が学生の論文では多かった。これらの特徴を把握することは、理系大学院生の英語論文執筆の指導に効果的であろう。

(伊藤泰子・神田外語大学)

#04. 研究発表

コーパス言語学は司法英語教育と EMI にどう貢献できるのか—類義語を例に取って—

How Can Corpus Linguistics Contribute to Legal English Education and EMI: An Example Case of Legal Synonyms?

鳥飼慎一郎 (立教大学・名誉教授)

「訴訟」を意味する suit と litigation、「(裁判官が) 判断する」をあらわす decide と judge を例にとって、それらの違いをコーパス言語学の視点から分析した。その結果、専門の辞書では得られない、語の使い方のヒントが得られた。English as a medium of instruction を実現するために、今後は英語教員も、英語教育以外の分野のことも知っていかなくてはならないと言えるであろう。

(伊藤泰子・神田外語大学)

#06. 研究発表

From Information Service to Ad-hoc Instruction: Multimodal L2 Talk-in-Interaction at a Railway Station

Ivan B. Brown (Joetsu University of Education)

This presentation reports on a conversation analysis of a Japanese learner in a service encounter at an information desk at a railway station in the U.K. and discusses L2 interaction competence. Unfortunately, some last explanations of the research were omitted because of the time.

(Kiyota, Yoichi; Meisei University)

#07. 研究発表

Assessing English as a Lingua Franca in an Academic Context: An ELF-aware Approach

Nakamura, Yuji (Keio University;
Professor Emeritus)

This presentation discusses an ELF-aware perspective in assessing English as a Lingua Franca in an academic context. It reports a washback effect is expected through this approach. Some questions about an attitude scale and evaluation criteria were asked after the presentation.

(Kiyota, Yoichi; Meisei University)

#09. 研究発表

小学校外国語科における語彙・辞書指導に関する一考察—小学校現職教員対象の全国調査結果が示唆すること—

Teaching Vocabulary and Using Dictionaries in Elementary-school EFL Classrooms: Implications from National Survey Results Among In-service Teachers

中山夏恵 (文教大学)

土屋佳雅里 (早稲田大学・非常勤講師)

山口高領 (秀明大学)

小学校の英語学習における語彙の指導について、3つの観点から報告した。観点は、小学校現職教員対象の全国調査の結果報告、小学校の教職履修生対象に、移行期用の教材にある語彙リストを用いて知識を確認したアンケート結果、教科書にある語彙を使用した発展的な電子辞書を活用した指導事例である。

(清田洋一・明星大学)

#10. 実践報告

新学習指導要領に基づく CLIL 授業の実践—英語科と情報科のコラボ授業—

Using the CLIL Approach in Upper Secondary Schools: A Collaboration Between English and Information Technology Classes

細喜朗（早稲田大学本庄高等学院）

現代の様々な課題に対応できる言語、情報活用、問題発見・解決等の、学習基盤となる能力を養成するために、CLIL を取り入れた教育実践報告である。私大付属高校の2年生を対象とし、英語科と情報科の教科横断型の4ヵ月にわたる指導の結果、プレゼンテーション後に実施したアンケートでは、概ね肯定的な評価が得られ、CLIL を取り入れた授業の可能性が示唆された。

（田口悦男・大東文化大学）

#11. 実践報告

2 step 翻訳

Two-step Translation

木村美由紀（東京慈恵会医科大学・非常勤講師）

2 step 翻訳を英語授業に取り入れ、その効果検証を行った授業実践報告である。発表者の定義によると、2 step 翻訳とは原文を直訳するのではなく、原語文と翻訳文との間に、2言語間の言語的、文化的な相違点を考慮しながら、翻訳文において理解しやすいように、原語文を再構成する段階を経て実際の翻訳に至る方法である。英語教育では母語を使用せずに目標言語を用いて授業を行うことが推奨される一方、2 step 翻訳のように、翻訳を英語教育に活用する視点は、ESPのように学術的、職業的、及び専門分野の言語技能教育にとって重要な可能性を秘めているのではないかという指摘が参加者から示された。

（田口悦男・大東文化大学）

#12. 実践報告

英文パラグラフにおける一貫性構築の指導—持続可能な開発目標(SDGs)タスクによる語彙の多様性構築—

How to Enhance Coherence in Paragraph: Developing Variety of Vocabulary Course Through SDGs Tasks

中谷安男（法政大学）

ライティング活動を通して学生の問題解決能力を養成する試みとしてのエッセイライティングタスクに関する報告がなされた。問題発見の枠組みとして、国連提唱の持続可能な開発目標(SDGs)が題材として与えられた。また、段階的 scaffolding、結束性への認識向上のための演習、ペアワークが実施された。その結果、エッセイ執筆能力獲得が実現、かつ英文の一貫性、正確性、語彙多様性などに改善がみられることが示唆された。

（河内山晶子・明星大学）

#15. 実践報告

再履修クラスにおけるオーラルプレゼンテーション活動—発表にむけた足場づくり—

Oral Presentation Activities for Repeating Students: Ways of Scaffolding

峰松和子（跡見学園女子大学）

再履修クラスでのオーラルプレゼンテーション活動を通して、学生たちがいかに自分の考えや体験を楽しく発表できるようになるかの実践報告がなされた。教師によるモデリングから始まり、ブレインストーミング、概念のカテゴリーへと進む足場づくりと相互評価をきめ細かく行うことで、学生の最近接発達領域が段階的に広がり、プレゼンテーション能力向上のみならずモチベーションの向上をも成果としてもたらされることが示唆された。

（河内山晶子・明星大学）

#16. 研究発表

高大連携・産学連携による ICT を用いた高校生英語やりとりスピーキング教育の縦断的研究

Longitudinal Research on Interactive English Speaking Education Through ICT: Collaborations Among High School, University and Industry

望月圭子 (東京外国語大学)

張正 (リングハウス教育研究所)

星澤美衣 (株式会社 産経ヒューマンラーニング)

チホネンコ・マキシム (東京外国語大学・大学院生)

ICT 技術を活用した交流型スピーキング教育 (オンライン英会話) の効果検証を目的とする高大連携・産学連携による科研プロジェクトの研究報告である。長野県と徳島県の県立高校生モニターを対象とした 17 ヶ月にわたる英語でのやりとりをもとに、学習者スピーキングコーパスを構築し、語彙的複雑性、及び統語的複雑性の観点から分析した結果について報告がなされた。

(田口悦男・大東文化大学)

#17. JACET 関東支部特別企画

オンライン授業の課題と可能性—今後の英語教育に向けて—

The Challenges and Opportunities of On-Line English Teaching: Toward Future Education

古田直肇 (東洋大学)

トム・ガリー (東京大学)

下山幸成 (東洋学園大学)

コロナ禍により多くの教員が初めて取り組むこととなったオンライン授業の課題と可能性について、3 人のパネラーが授業実践に基づき意見を交換した。まず教員学生双方への負担増加と疲弊蓄積が、オンライン授業の持続可能性への大きな課題として示唆された。同時に人間関係構築機能など対面授業でしか実現しない点への気づきが促され、さらにオンライン授業の負担を軽減しつつ質の向上を目指すための様々な技術も紹介

された。

(河内山晶子・明星大学)

第 1 回支部総会報告

支部事務局幹事

奥切恵 (聖心女子大学)

2020 年 8 月 29 日(土)にオンラインで、2020 年度第 1 回支部総会が開催されました。支部総会では、2019 年度 事業報告・会計報告、2020 年度事業計画についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。なお、会計報告は省略します。

■2019 年度事業報告■

I. 大会、セミナー等の開催 (1 号事業)

(1) 支部大会の開催

名称：2019 年度第 12 回 JACET 関東支部大会

日時：2019 年 7 月 7 日 (日)

目的：大学英語教育及び関連分野に関する調査・研究の発表を行うこと

場所：東洋大学

大会テーマ：時代が変わる・英語教育が変わる—産官学のダイバーシティへの取り組み—

研究発表 15 件、実践報告 9 件、賛助会員発表 2 件、開催校企画 1 件、関東支部企画特別講演、2 件、基調講演 1 件、全体シンポジウム 1 件

(2) 講演会及びワークショップの開催

名称：JACET 関東支部・東洋大学共催企画

場所：東洋大学白山キャンパス

規模：毎回約 40 名

日時と内容：
日時：2019年4月13日(土)16:00~17:30
題目：「グローバル人材育成と学習成果分析」
講師：芦沢真五（東洋大学）

日時：2019年9月14日(土)16:00~17:30
題目：「Creative Commons & Copyrights for the Creative Minded Teacher」
講師：Rab Paterson 先生（東洋大学）

日時：2019年11月9日(土)16:00~17:30
題目：「主体的・対話的で深い学び」を小・中・高（・大）でどのようにつなげていくか？
—つながるツールとつなげる教師—
講師：久村研（田園調布学園大学名誉教授）、
栗原文子（中央大学）

日時：2019年1月11日(土)16:00-17:30
題目：「統計の基礎の基礎 —データの読み方—」
講師：山口高領（秀明大学）

(3)支部講演会の開催
名称：関東支部講演会
場所：東洋大学白山キャンパス
規模：毎回約40名

日時と内容：
日時：2019年5月11日(土)16:00~17:20
題目：「発達障害のある児童生徒の英語学習における課題」
講師：村上加代子（甲南女子大学）

日時：2019年6月8日(土)16:00~17:20
題目：「オリパラ運営における共通語：英語の重要性—大会ボランティアプログラムを例として—」
講師：西川千春（笹川スポーツ財団特別研究員、
明治大非常勤講師）

日時：2019年12月14日(土)16:00~17:20
題目：「外国語教育が揺らす学習者の価値観：グローバル化社会と機械翻訳の時代に何を教えるのか」
講師：酒井志延先生（千葉商科大学）

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）
(1) 『JACET 関東支部紀要』第7号
（英語名：JACET-KANTO Journal）

日時：2020年3月31日
規模：約1100冊

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」
①2019年9月30日（第13号）
②2020年3月31日（第14号）
※JACET 関東支部ホームページに PDF で掲載

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催
名称：2019年度第1回、第2回関東支部総会
①日時：2019年7月7日
場所：東洋大学
目的：2018年度の支部の事業報告、会計報告及び2019年度の支部の事業計画
②日時：2019年11月19日
場所：東洋大学
目的：2020年度の支部の事業計画、予算案及び人事案の審議

(2) 支部役員会の開催
名称：関東支部運営会議
日時：2019年4月13日、5月11日、6月8日、
9月14日、10月12日、11月9日、12月
14日、2020年1月11日、3月14日
場所：東洋大学、及び（10月と3月のみ）オンライン

目的：関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、協議を行った。10月12日は台風のため、3月14日は新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで会議を実施した。

■2020年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

日時：2020年8月29日、30日

形態：オンライン

規模：約300名

(2) JACET 関東支部・東洋大学共催企画の開催

日時：2020年6月13日（土）、11月21日、
2021年3月13日の3回を予定

形態：オンライン（予定）

目的：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

JACET 関東支部・東洋大学共催企画（第1回）

日時：2020年6月13日（土）16:00~17:20

題目：「オックスフォード大学と持続可能な開発目標（SDGs）：英語4技能試験に向けたライティング指導の示唆」

講師：中谷安男先生（法政大学経済学部）

(3) 関東支部講演会の開催

日時：2020年4月11日（新型コロナウイルス感染防止のため、6月のJACET 関東支部・東洋大学共催企画に延期）、10月3日、12月12日の3回を予定

形態：オンライン

目的：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

(4) 緊急座談会の開催

日時：2020年5月23日（土）14:00~15:30

形態：オンライン

題目：「オンライン授業の課題と可能性」

規模：約70名

目的：

- ・支部講演会と支部共催講演会のほかにもタイムリーに教育現場・研究における問題や課題について、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。
- ・研究者同士の交流・発展の場を提供する。

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第8号（英語名：*JACET-KANTO Journal*）

日時：2021年3月31日

形態：オンライン

目的：

- ・広く原稿を募集し、支部会員の研究の活性化と質の向上を図る。
- ・既存の記事種別に加え、新たな種別の創設などを通して若手研究者の発掘・育成を試みる。

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」第15・16号

日時：

- ・2020年10月31日（第15号）
- ・2021年3月31日（第16号）

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に

関する情報提供と情報交換を行う。また、
関東支部活動をアーカイブ化する。

形態：JACET 関東支部ホームページに PDF で
掲載

Ⅲ. その他 (5号事業)

(1) 支部総会の開催

名称：2020年度第1回、第2回関東支部総会

①日時：2020年8月29日

場所：東洋大学

目的：2019年度の関東支部の活動、会計報告、
及び2020年度の関東支部の活動計画、
予算案及び人事案を示す。

②日時：2020年11月21日

場所：東洋大学

目的：2021年度の関東支部の活動計画、予算
案及び人事案の審議・承認を行う。

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：2020年4月、5月、6月、8月（臨時）、
10月、11月、12月、2021年1月、3月

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、計画の立案を
行う。

JACET 関東支部 (5月) 緊急座談会報告

JACET 関東支部長 藤尾美佐 (東洋大学)

関東支部運営委員 中竹真依子 (学習院大学)

JACET 関東支部 (5月) 緊急座談会

日時：2020年5月23日 (土) 14:00~15:30

場所：オンライン (Zoom で実施)

題目：「オンライン授業の課題と可能性」

本座談会では、「オンライン授業の課題と可能性」というテーマのもと、参加者同士で各自のオ

ンライン授業の状況や直面している問題を共有した上で、さまざまなテーマについて意見交換を行った。

まず、オンライン授業の状況としては、対面の授業時よりも学生が活発に授業に参加している、(チャット機能やコメントスクリーン等を使用することで) 授業内で気軽に発言する、といった効果がみられたことが報告された。また、zoomの breakout セッションを効果的に使い、学生同士のインタラクションが成功している事例も報告された。一方、直面している問題としては、授業の途中でインターネット通信障害による授業の中断、インターネットの通信障害や学生のインターネット通信量制限、学習者の自宅のネットワーク環境の差、学習者間の IT リテラシーの問題、双方向性の担保、オンライン授業用の教材・課題の作成およびフィードバックにかかる時間と労力、学生・教員のモチベーションの維持、評価方法などが挙げられた。

次に、新型コロナ終息後の英語の授業について、新型コロナ終息後の教育現場は具体的にどのように変わっていくのか、ブレンディッド・ラーニング、英語を教える意義・教員の役割、教科書の役割といったテーマに基づき意見交換を行った。コロナ禍を受けて教育現場における ICT の活用が進み、新型コロナ終息後も、オンライン授業と対面授業を併用 (ハイブリッド) または融合 (ブレンディッド) させるといった流れが出てくると考えられる。さまざまな課題はあるものの、オンライン授業の利点や特徴を活かし、オンライン授業と対面授業を組み合わせることで大学英語教育をどう変えていくのか、新たな学びのあり方、新しい大学のあり方はどうあるべきか、という点について議論が行われた。

座談会の終盤では、今後の新たな研究課題として、AI や Big Data の活用、Learning Analytics などが挙げられ、議論が行われた。このコロナ禍においては、研究データの収集等においてさまざまな

制約がある中で、新しい研究の進め方も模索していく時でもあろう。

この座談会への参加を通して、実践者としての自己を振り返りながら、お互いにそれぞれの現場での苦労や問題点も出し合って意見交換ができたことは大変有益で、今後のオンライン授業への活力となった。

支部講演会委員会報告

支部講演会委員長

山本成代（創価女子短期大学）

■2020年度上半期活動報告■

2020年度上半期は、当初、4月11日（土）に第1回支部講演会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大状況のため、第1回 JACET 関東支部・東洋大学共催企画（6月13日）で同じ内容で開催することとして延期された。4月の支部講演会では中谷安男先生（法政大学）にお願いする予定だったが、JACET 関東支部・東洋大学共催企画としてオンラインで行われた。

上半期の支部講演会は4月開催予定のみだったため、上半期において支部講演会は開催されなかった。

■2020年度下半期活動計画■

2020年度下半期は、10月3日（土）に長田恵理先生（國學院大學准教授）をお招きして、「イタリアの小学校外国語教育—教材・教具を中心に—」という題目でご発表をお願いし、オンラインにて16:00~17:20で開催した。また、12月12日（土）に、浅岡千利世先生（獨協大学）をお招きしてご発表をお願いする予定となっている。本年度上半期は、支部講演会が一度も開催されないという寂しいものとなったが、下半期は活発な講演会となることを期待している。

JACET 関東支部・東洋大学共催企画

（第1回）報告

関東支部運営委員

中竹真依子（学習院大学）

JACET 関東支部・東洋大学共催企画（第1回）

日時：2020年6月13日（土）16:00~17:20

場所：オンライン（Zoom で実施）

題目：「オックスフォード大学と持続可能な開発目標（SDGs）：英語4技能試験に向けたライティング指導の示唆」

講師：中谷安男先生（法政大学経済学部）

本講演では、オックスフォード大学の教育の示唆と英語4技能に向けたライティング指導の示唆について、先生ご自身のご経験を交えながらお話しいただいた。

まず、オックスフォード大学では、クリティカル・シンキングによる多読や、豊富なセミナーの提供、Oxford Union（世界屈指の学生ディベート集団）でのゲストスピーカー（Guest speakers）の講演などの事例をご紹介いただきながら、「教える」のではなく、大学としていかにによりよい「学ぶ」機会を提供しているかをご説明いただいた。また、Sustainable Development に向けて、学生に対し、目標やロールモデルをはっきり提示し、そしてその目標に質問する機会も用意されている点も特徴としてご説明いただいた。Oxford Union に招聘されるゲストスピーカーたちは、学生たちにとってのロールモデルであり、講演が自分の目標とする社会の第一人者たちが何を考え活動をしているかを知る機会となり、貴重な動機づけや、目標設定の機会を提供しているとのことだった。

また、オックスフォード大学の教育の特徴として、最高の学ぶ機会を提供しながら、社会のさまざまな課題と向き合い、自分の研究が社会にどのような影響があるかについて考えさせる。また、その答えを自分で見出す能力を育成する、といっ

た徹底した自律的な教育が施されていることをご説明いただいた。一方、日本では、そういった個人の学習や研究が社会に与える影響について学生に考えさせるといった教育はあまり行われてこなかったのではないかと指摘された。そして、現代日本に不足しているものとして、「リーダーシップ」と「英語による交渉力」を挙げられた。今後はこのようなリーダーシップを発揮でき英語による交渉力を持ち合わせた人材が必要とされる。こうした人材育成のヒントとして、上述のOxford Unionでのディベートについて詳しくご説明いただいた。また、先生のオックスフォード大学でのご経験もふまえ、ディベートに必要なストラテジー能力とは、「論理性」「交渉力」「知力」そして「書く力」であると述べられた。オックスフォード大学では、ディベートのための足場かけ学習（Scaffolding）として、ディベートワークショップや意見交換を通じた豊富な発表を行う体験機会が用意されているとのことだった。

後半は、先生のSDGsに沿ったライティング教材を用いたライティング指導についてご説明いただいた。先生がご作成された教科書 *Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals*（金星堂）をご紹介いただき、さまざまな足場かけを通じた、学習者が読みやすく、わかりやすい英文を書けるようになるための工夫など、具体的にどのようなライティング指導を行っているかをご報告いただいた。また、目標を教員と学生とで共有すること、学ぶ機会を提供すること、教員の「教える」足場かけが大事であると述べられた。

講演中には、クイズや breakout セッションを用いたアイスブレイキングの時間、先生の模擬授業などもあり、終始有意義でかつ楽しい時間を過ごすことができた。質疑応答では、学生が持っている世界観の違い、中学校レベルにおける peer review の有効性、先生のオックスフォード大学での苦労話、speaking と結びつけた writing 指導など

が話題にあがり、活発な議論が行われた。また、書くことに対する肯定的な意識・姿勢を育むことの重要性についても意見が交わされた。今回のご講演を通して、教員は「教える」のではなく、学習者に対し「いかに学ぶ機会を提供していくか」という視点を持つことが重要であるということを確認させられた。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長

鈴木彩子（玉川大学）

■支部紀要編集委員会からのお知らせ■

紀要編集委員会は2021年3月の第8号の発行に向けて準備を進めています。今年度から関東支部紀要はWebでの発行になることを受け、これまで7月20日だった応募原稿締め切りが8月31日に変更となりました。現在、第一次査読が査読者の先生方の協力の下、進行中です。今後、3月の発行に向けて年明けまでに全ての審査を終了し、その後、採録論文の編集・校正作業へと移っていく予定です。

今年度の応募原稿数は過去数年の原稿数のほぼ倍となり、これは非常に大きな驚きでした。また、今年度の応募の特徴として、「論文」の原稿数が非常に多いこと、原稿の半数以上が英語で執筆されていることの2点が挙げられます。この応募数の増加・英語原稿の増加は、Web化による締め切りの延長によるものなのか、はたまた、新型コロナウイルス感染症拡大のため先生方の執筆可能な時間が増えたからなのか、それは知ることはできません。しかしながら、特に今年前半はコロナ禍で多くの学会発表の場が失われたため、多くの研究者が研究発表の場を探し求めこの関東支部紀要にたどり着いたと考えることは、妥当なように思えます。紀要が多くの人に認知され、研究成果の発信の場として選ばれたことは、非常に喜ばしい

ことです。これも第1号から第7号まで、滞りなく毎年発行を続けてきたからであると自負します。

同時に、応募数の増加は紀要編集委員会での作業の増加を意味します。既に多くの査読者の先生方に協力を頂いておりますが、今後の審査の過程では、他の関東支部会員の先生方にもご協力を頂くことになるかもしれません。紀要編集委員会では効率的な作業の仕方を模索しながら、質の高い研究成果発表のお手伝いができるよう協力し合い作業を進めています。このコロナ禍がいつまで続くのかは分かりませんが、収束した後も研究発表の場として選ばれるように、紀要編集委員会では努力を続けてまいります。

事務局だより

支部事務局幹事

奥切恵（聖心女子大学）

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいませよう、どうぞよろしく願いいたします。

JACET-Kanto Newsletter 第15号

発行日：2020年10月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 藤尾美佐）

編集者：佐野富士子、下山幸成、

齋藤早苗、長田恵理

発行所：〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学経営学部会計ファイナンス

学科

藤尾美佐 研究室内

■JACET 関東支部・東洋大学共催企画講演会のお知らせ■

2020年度今後の関東支部講演会及び関東支部・東洋大学共催企画開催予定は以下の通りです。形態は全てオンラインの予定です。

2020年度第2回関東支部・東洋大学共催企画

日時：2020年11月21日（土）16:00~17:20

題目：「テキストマイニングに基づく学習者コーパス研究の理論と方法」

講師：李在鎬（りじえほ）先生（早稲田大学大学院日本語教育研究科・教授）

2020年度第3回関東支部講演会

日時：2020年12月12日（土）16:00~17:20

題目：「英語教師の学びの過程と協同的振り返り」

講師：浅岡千利世先生（獨協大学外国語学部英語学科・教授）

2020年度第3回関東支部・東洋大学共催

日時：2021年3月13日（土）16:00~17:20